

新たな価値創出へ

——日本海事協会(NK)の子会社であるシップデータセンター(ShipDC)が手掛ける船舶運航データの流通に関する共通基盤「IoS-OP」プラットフォーム(IoS-OP)のコンソーシアムに参加した経緯や狙いは。

「保険というサービスをを通じて、企業や業界の挑戦をサポートすることがわれわれの使命になる。船舶保険を提供することで、日本の海事クラスターの発展にいかに関与していくか。船級協会をはじめとする関係者と連携しながら、次世代の船舶保険の在り方を模索している」

「IoS-OPが立ち上がったことで、船舶運航に関するビッグデータへのアクセスが可能になった。それらの運航データと保険事業を通じて蓄積してきたデータとを融合すれば、新しいサービスを生み出せるかもしれない。アンダーライティング(保険引き受け業務)などにも生かせる可能性がある。そういった理由で参加を決めた」

「保険会社は過去のデータに基づき商品を開発し、保険料を設定する。その過程にビッグデータをいかに組み込むかが大きな課題となっている。世の中がデジタルの時代に移り変わっていく中で、保

MariTech × ShipDC

海事未来図

片岡敏彰氏

東京海上日動火災保険
海上業務部部長兼
船舶業務グループリーダー



かたおか・としあき 88(昭和63)年東大卒、東京海上日動火災保険入社、船舶営業第一配属。10年西日本船舶営業部今治支社長、14年4月から現職。53歳。

保険・運航データを融合

「IoS-OPが立ち上がったことで、船舶運航に関するビッグデータへのアクセスが可能になった。それらの運航データと保険事業を通じて蓄積してきたデータとを融合すれば、新しいサービスを生み出せるかもしれない。アンダーライティング(保険引き受け業務)などにも生かせる可能性がある。そういった理由で参加を決めた」

「IoS-OPが立ち上がったことで、船舶運航に関するビッグデータへのアクセスが可能になった。それらの運航データと保険事業を通じて蓄積してきたデータとを融合すれば、新しいサービスを生み出せるかもしれない。アンダーライティング(保険引き受け業務)などにも生かせる可能性がある。そういった理由で参加を決めた」

「IoS-OPが立ち上がったことで、船舶運航に関するビッグデータへのアクセスが可能になった。それらの運航データと保険事業を通じて蓄積してきたデータとを融合すれば、新しいサービスを生み出せるかもしれない。アンダーライティング(保険引き受け業務)などにも生かせる可能性がある。そういった理由で参加を決めた」

協業しお互いのノウハウを持ち寄り、事故予防の高度化につなげていきたい」

保険料設定に活用

「IoS-OPが立ち上がったことで、船舶運航に関するビッグデータへのアクセスが可能になった。それらの運航データと保険事業を通じて蓄積してきたデータとを融合すれば、新しいサービスを生み出せるかもしれない。アンダーライティング(保険引き受け業務)などにも生かせる可能性がある。そういった理由で参加を決めた」

「IoS-OPが立ち上がったことで、船舶運航に関するビッグデータへのアクセスが可能になった。それらの運航データと保険事業を通じて蓄積してきたデータとを融合すれば、新しいサービスを生み出せるかもしれない。アンダーライティング(保険引き受け業務)などにも生かせる可能性がある。そういった理由で参加を決めた」

「IoS-OPが立ち上がったことで、船舶運航に関するビッグデータへのアクセスが可能になった。それらの運航データと保険事業を通じて蓄積してきたデータとを融合すれば、新しいサービスを生み出せるかもしれない。アンダーライティング(保険引き受け業務)などにも生かせる可能性がある。そういった理由で参加を決めた」

「IoS-OPが立ち上がったことで、船舶運航に関するビッグデータへのアクセスが可能になった。それらの運航データと保険事業を通じて蓄積してきたデータとを融合すれば、新しいサービスを生み出せるかもしれない。アンダーライティング(保険引き受け業務)などにも生かせる可能性がある。そういった理由で参加を決めた」

点を整理するために、7月2日に『海洋システム連携基盤(Sea PaS)プラットフォームテクノロジーカンファレンス』を主催した。産官学の専門家に登壇していただき、技術・法律の両面から課題を解説してもらった。遠隔探船による自動運航船が具体化しつつある中で、自動運航船に対応した法制度の整備も急ぐ必要があると思う」

「IoS-OPが立ち上がったことで、船舶運航に関するビッグデータへのアクセスが可能になった。それらの運航データと保険事業を通じて蓄積してきたデータとを融合すれば、新しいサービスを生み出せるかもしれない。アンダーライティング(保険引き受け業務)などにも生かせる可能性がある。そういった理由で参加を決めた」

「IoS-OPが立ち上がったことで、船舶運航に関するビッグデータへのアクセスが可能になった。それらの運航データと保険事業を通じて蓄積してきたデータとを融合すれば、新しいサービスを生み出せるかもしれない。アンダーライティング(保険引き受け業務)などにも生かせる可能性がある。そういった理由で参加を決めた」

「IoS-OPが立ち上がったことで、船舶運航に関するビッグデータへのアクセスが可能になった。それらの運航データと保険事業を通じて蓄積してきたデータとを融合すれば、新しいサービスを生み出せるかもしれない。アンダーライティング(保険引き受け業務)などにも生かせる可能性がある。そういった理由で参加を決めた」